

## 第8章 医療

### 第1節 準備期

#### 1 目的

新型インフルエンザ等が発生した場合は、患者数の増大が予想されるため、地域の医療資源（医療人材や病床等）には限界があることを踏まえつつ、平時から感染症法に基づき、道と医療機関等との間で医療措置協定等を締結することで、有事における新型インフルエンザ等に対する医療提供体制および通常医療の提供体制の確保を行う。

また、道は、平時から医療機関等の関係者を交えた訓練や研修の実施、連携協議会の活用等を行うことで、有事の際の地域の医療提供体制について準備と合意形成を図るとともに、医療機関等が有事に適切に対応を行えるよう支援を行う。

#### 2 所要の対応

##### 1-1. 基本的な医療提供体制

- (1) 道が新型インフルエンザ等に係る医療提供の司令塔となり、管内の保健所とも有事の役割分担をあらかじめ整理した上で、下記1-1-1から1-1-7までに記載した相談センター、感染症指定医療機関、病床確保を行う\*協定締結医療機関、発熱外来を行う協定締結医療機関、自宅療養者等への医療の提供を行う協定締結医療機関、後方支援を行う協定締結医療機関、医療人材の派遣を行う協定締結医療機関等の多数の施設や医師会等の医療関係団体を有機的に連携させることにより、必要な医療を提供する。
- (2) 国は、感染症危機において、患者の状態に応じた適切な感染症医療を提供できるよう、医療機関への入院、宿泊療養、自宅療養等について、症状や重症化リスク等に応じた振り分けの基準を示す。道は、地域の実情に応じて、機動的な運用を行う。
- (3) 道は、上記の有事の医療提供体制を平時から準備することで、有事において感染症医療および通常医療を適切に提供する。
- (4) 道は、有事において、協定締結医療機関の確保病床数や稼働状況、病床使用率、重症者用病床使用率、外来ひっ迫状況、救急搬送困難事案数等の情報を把握し、入院や搬送等の必要な調整を実施することができるよう、平時から感染症有事の実施体制を明確化する。

##### 1-1-1. 相談センター

本市は、新型インフルエンザ等の国内外での発生を把握した段階で、早期に相談センターを整備する。相談センターは、発生国・地域からの帰国者等や有症状者等からの相談を受け、受診先となる感染症指定医療機関等の案内を行う。

##### 1-1-2. 感染症指定医療機関

新たな感染症が発生した場合は、感染症法第16条第2項に規定する\*新型インフルエンザ等感染症等に係る発生等の公表前は、感染症指定医療機関が中心となって対応する。その後も、感染症指定医療機関は、地域の感染症医療提供体制の中核として役割を果たす。

### 1-1-3. 病床確保を行う協定締結医療機関（第一種協定指定医療機関）

病床確保を行う協定締結医療機関は、平時に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、病床を確保し、入院医療を提供する。新型インフルエンザ等の流行初期（新型インフルエンザ等感染症等に係る発生等の公表から約3か月を想定。以下この章において同じ。）においては、\*流行初期医療確保措置の対象となる協定締結医療機関（以下「流行初期医療確保措置協定締結医療機関」という。）が対応を行い、その後順次その他の協定締結医療機関も対応を行う。

### 1-1-4. 発熱外来を行う協定締結医療機関（第二種協定指定医療機関）

発熱外来を行う協定締結医療機関は、平時に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、全国的に検査の実施環境が整備される中で、発熱患者等専用の診察室（時間的・空間的分離を行い、プレハブ、簡易テント、駐車場等で診療する場合を含む。）を設け、発熱患者の診療を行う。新型インフルエンザ等の流行初期においては、流行初期医療確保措置協定締結医療機関が対応を行い、その後順次その他の協定締結医療機関も対応を行う。

### 1-1-5. 自宅療養者等への医療の提供を行う協定締結医療機関（第二種協定指定医療機関）

自宅療養者等への医療の提供を行う協定締結医療機関は、平時に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、病院、診療所、薬局および訪問看護事業所において、自宅療養者、宿泊療養者および高齢者施設等における療養者に対して、往診、電話・オンライン診療、調剤・医薬品等交付・服薬指導、訪問看護等を行う。

### 1-1-6. 後方支援を行う協定締結医療機関

後方支援を行う協定締結医療機関は、平時に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、新型インフルエンザ等以外の患者や新型インフルエンザ等から回復後の患者の受入れを行う。

### 1-1-7. 医療人材の派遣を行う協定締結医療機関

医療人材の派遣を行う協定締結医療機関は、平時に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、新型インフルエンザ等に対応するため、医療人材を医療機関等に派遣する。

## 1-2. 予防計画および医療計画に基づく医療提供体制の整備

- (1) 道は、予防計画および医療計画に基づく医療提供体制の目標値を設定するとともに、地域の医療機関等の役割分担を明確化し、新型インフルエンザ等の発生時における医療提供体制を整備する。また、道は、予防計画および医療計画に基づき、医療機関との間で、病床確保、発熱外来、自宅療養者等への医療の提供、後方支援または医療人材の派遣に関する協定を締結する。
- (2) 国は、都道府県に対して、予防計画および医療計画に定める医療提供体制が整備されるよう必要な支援や助言等を行う。また、国は、\*医療機関等情報支援システム（G-M

I S)等を通じて、都道府県における医療提供体制の整備状況を定期的に確認し、公表する。

- (3) 道は、民間宿泊業者等との間で協定の締結を進めて宿泊施設の確保を行いつつ、対応期において軽症者等を受け入れる場合の運営の方法等について事前に民間宿泊業者等に周知を行う。

#### 1-3. 研修や訓練の実施を通じた人材の育成等

- (1) 国は、災害・感染症医療業務従事者（DMAT、DPATおよび災害支援ナース）の養成・登録を行い、状況を定期的に確認する。
- (2) 本市は、国や教育機関、医療機関と協力して、感染症の医療専門職や感染管理の専門家（感染制御医療従事者（ICD）、感染管理認定看護師（ICN）等）など多様な人材の育成のため、研修や訓練を行う。
- (3) 国は、新型インフルエンザ等の診断、重症度に応じた治療、院内感染対策、患者の移送等に係る指針等の策定を行い、医療機関へ周知する。
- (4) 道は、災害・感染症医療業務従事者等の医療人材の派遣を行う医療機関との間で協定を締結する。また、道は、必要に応じて医療機関等を対象とした研修・訓練を実施するとともに、本市は、医療機関等に対して、感染症対応を行う医療従事者等の新型インフルエンザ等の発生を想定した必要な研修・訓練の実施または国および道が実施する当該研修等への参加が図られるよう、働きかける。
- (5) JIHSは、国と連携して、特に医療機関や研究機関、検査機関の機能等の向上のため、人材の交流も含め、人材育成や研究開発の支援等を行う。

#### 1-4. 新型インフルエンザ等の発生時のためのDXの推進

国は、新型インフルエンザ等の発生時における対応能力の向上や業務負担の軽減等のため、医療機関等情報支援システム（G-MIS）の改善、感染症サーベイランスシステムの活用、電子カルテ情報の標準化など、DXを推進する。また、道や医療機関等は、医療機関等情報支援システム（G-MIS）等の運用について、平時から確認を行う。

#### 1-5. 医療機関の設備整備・強化等

- (1) 道は、国と連携し、新型インフルエンザ等の対応を行う感染症指定医療機関および協定締結医療機関について、施設整備および設備整備の支援を検討するとともに、準備状況の定期的な確認を行う。
- (2) 医療機関は、平時から、\*ゾーニングや個室・\*陰圧室等の準備状況について定期的な確認を行い、対応体制の強化を行う。

#### 1-6. 臨時の医療施設等の取扱いの整理

- (1) 国は、臨時の医療施設の設置・運営や医療人材確保等の方法について整理を行い、都道府県へ示す。
- (2) 道は、国による整理も踏まえ、平時から、臨時の医療施設の設置、運営、医療人材確

保等の方法を整理する。

#### 1-7. 連携協議会等の活用

道は、新型インフルエンザ等が発生した際に対応ができるよう、連携協議会等において、医療機関や保健所、消防機関、高齢者施設等との連携を図り、予防計画および医療計画に基づく医療提供体制が有事に適切に確保できるよう、相談・受診から入退院までの流れ、入院調整の方法、医療人材の確保、患者および症状が回復した者の移動手段、高齢者施設等への医療人材派遣や、高齢者施設等における重症者対応や集団感染が発生した場合の医療の提供等について協議の上、整理を行い、随時更新を行う。

また、道は、これらの整理を踏まえ、必要に応じて感染症法に基づく総合調整権限を活用しながら、医療提供体制の確保について、あらかじめ関係機関等と確認する。

なお、保健所設置市等に対する平時からの体制整備等に係る総合調整権限や、新型インフルエンザ等感染症等発生等公表期間の指示権限を適切に行使しながら、円滑な入院調整体制の構築、実施を図るものとする。

#### 1-8. 特に配慮が必要な患者に関する医療提供体制の確保

- (1) 道は、特に配慮が必要な患者について、患者の特性に応じた受入れ医療機関の設定および病床の確保や、関係機関等との連携等の体制確保を行う。
- (2) 道は、地域によっては、小児や妊産婦等の医療にひっ迫が生じる可能性があることから、そのような場合の広域的な感染症患者等の移送・他の疾患等の傷病者の搬送手段等について関係機関との間で、平時から協議を行う。

## 第2節 初動期

### 1 目的

新型インフルエンザ等に位置付けられる可能性がある感染症が発生した場合は、感染症危機から市民の生命および健康を守るため、適切な医療提供体制を確保する。

このため、本市は、国から提供・共有された感染症に係る情報や要請に基づき、道および医療機関等と連携し、相談・受診から入退院までの流れを迅速に整備する。また、道は、地域の医療提供体制の確保状況を常に把握するとともに、管内の医療機関や住民等に対して、感染したおそれのある者については相談センターを通じて感染症指定医療機関の受診につなげるなど適切な医療を提供するための情報や方針を示す。

### 2 所要の対応

#### 2-1. 新型インフルエンザ等に位置付けられる可能性がある感染症に関する知見の共有等

本市は、道と連携し、国やJ I H Sから提供された情報（感染症指定医療機関での対応により得られる臨床情報、他都府県の地方衛生研究所等での検査により得られる情報、他都府県が実務を行う中で入手した情報、研究機関や学術団体等が入手した情報も含め、新型インフルエンザ等に位置付けられる可能性がある感染症に関する情報）を医療機関や消防機関、高齢者施設等に周知する。

#### 2-2. 医療提供体制の確保等

- (1) 新型インフルエンザ等感染症等に係る発生等の公表前に、国は、都道府県に対して、感染症指定医療機関において、速やかに患者に適切な医療を提供する体制を確保するよう要請する。
- (2) 道は、感染症指定医療機関における感染症患者の受入体制を確保するとともに、保健所、医療機関、消防機関等と連携し、入院調整に係る体制構築を進め、準備期において連携協議会等で整理した相談・受診から入退院までの流れを迅速に整備する。併せて、医療機関に対し、医療機関等情報支援システム（G-M I S）に確保病床数・稼働状況、病床使用率、重症者用病床使用率、外来ひっ迫状況等を確実に入力するよう要請を行う。
- (3) 感染症指定医療機関は、患者の受入体制を確保し、患者に適切な医療を提供する。また、医療機関は、道からの要請に応じて、医療機関等情報支援システム（G-M I S）の入力を行う。
- (4) 本市は、道と連携し、医療機関に対し、症例定義を踏まえ、受診患者が新型インフルエンザ等に位置付けられる可能性がある感染症に感染したおそれがあると判断した場合は、直ちに保健所に連絡するよう要請する。
- (5) 本市は、道や関係団体等と協力し、地域の医療提供体制や医療機関への受診方法等について市民等に周知する。
- (6) 本市は、国からの要請を受け、対応期における発熱外来の迅速な稼働の前提となる検査体制を遅滞なく確立するため、予防計画に基づく検査等措置協定機関等に対し、検査体制を速やかに整備するよう要請を行う。
- (7) 本市は、道と連携し、国からの要請を受け、対応期において流行初期の協定締結医療機関による医療提供体制が遅滞なく確保できるよう、流行初期医療確保措置協定締結医

療機関に対し、対応の準備を行うよう要請する。

- (8) 本市は、自宅療養者の医療提供体制への支援として、高齢者や障がい者等の要配慮者に対する往診および訪問看護や、在宅薬剤師による医療提供を実施する医療機関等に対し、本市が備蓄する個人防護具の配付等を検討する。
- (9) 本市は、道が開設する宿泊施設における体制が十分でないとは判断した場合は、宿泊施設を新たに確保するよう道に要請し、また、宿泊施設の体制が整備されるまでの間、必要に応じて、公共施設等を活用するなど、一時的に本市が宿泊施設を確保することを検討する。

### 2-3. 相談センターの整備

- (1) 国は、都道府県等に対して、発生国・地域からの帰国者等や有症状者等からの相談を受け、必要に応じて、感染症指定医療機関の受診につなげる相談センターの整備を速やかに行うよう要請する。
- (2) 国は、症例定義に該当する有症状者等は、相談センターに相談するよう周知を行うとともに、都道府県等に対しても住民等に周知を行うよう要請する。
- (3) 本市は、有症状者等からの相談に対応する相談センターを整備し、市民等への周知を行い、感染したおそれのある者について、必要に応じて感染症指定医療機関の受診につなげる。
- (4) 本市は、道と連携し、感染症指定医療機関以外の医療機関に対して、症例定義に該当する有症状者等から相談等があった場合は、相談センターを通じて感染症指定医療機関の受診につなげるよう要請する。

### 第3節 対応期

#### 1 目的

新型インフルエンザ等が発生した場合は、全国的かつ急速にまん延し、市民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがある。本市は、健康被害を最小限にとどめ、市民が安心して生活を送ることができるよう、道と連携し適切な医療提供体制を確保し、新型インフルエンザ等の患者およびその他の患者に必要な医療を提供する必要がある。

このため、道は、国から提供された情報を基に、病原性や感染性等に応じて変化する地域の実情に応じて、医療機関や保健所等と連携し、新型インフルエンザ等の患者およびその他の患者に適切な医療が提供できるよう対応を行う。

また、道は、国と連携し、一部の医療機関や一部の地域の医療がひっ迫する場合等の準備期に整備する体制を超える感染拡大が発生するおそれのある場合にも機動的かつ柔軟に対応する。

#### 2 所要の対応

##### 3-1. 新型インフルエンザ等に関する基本の対応

- (1) 国は、初動期に引き続き、J I H Sと協力して、感染症指定医療機関、衛生研究所等、道、研究機関や学術団体等の入手した情報を含め、新型インフルエンザ等に関する情報収集・分析を行い、病原性や感染性に応じて変異する新型インフルエンザ等の発生状況、感染症の特徴、病原体の性状（病原性、感染性、薬剤感受性等）、診断・治療に関する情報等について、随時更新や見直しを行いながら、都道府県、医療機関、国民等に迅速に提供・共有を行う。
- (2) 国は、J I H Sや感染症指定医療機関、都道府県等から提供される臨床情報や病床使用率等を踏まえ、症例定義や入退院基準、濃厚接触者の基準等について、随時見直しを行う。その際、医療従事者に関する濃厚接触者の基準は、医療提供体制の維持の観点から踏まえ、感染拡大防止のための必要な対応にも留意しつつ、より柔軟に見直すことを検討する。
- (3) 本市は、道と連携し、国およびJ I H Sから提供された情報等を医療機関や消防機関、高齢者施設等に周知するとともに、国が示した基準も参考としつつ、地域の感染状況や医療提供の状況等を踏まえ、段階的に医療提供体制を拡充し、医療機関への入院、宿泊療養、自宅療養等への振り分けを行う。また、道は、本市との間で入院調整が円滑に行われるよう、必要に応じて総合調整権限・指示権限を行使する。
- (4) 道は、準備期において連携協議会等で整理した医療提供体制等が適切に確保できるよう、感染症指定医療機関に対して必要な医療を提供するよう要請するとともに、協定締結医療機関に対して準備期に締結した協定に基づき必要な医療を提供するよう要請する。
- (5) 感染症指定医療機関は、初動期に引き続き、地域の感染症医療提供体制の中核として役割を果たす。協定締結医療機関は、準備期に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、病床確保、発熱外来、自宅療養者等への医療提供、後方支援または医療人材の派遣を行う。
- (6) 道は、国と連携し、流行初期に病床確保や発熱外来を行う協定締結医療機関に対して、診療報酬の特例措置や補助金等の財政支援が整備されるまでの一定期間、流行前と同水準の収入を補償する措置を行うとともに、感染状況や感染症の特徴等を踏まえ、患者に

医療を提供する医療機関等を支援する。

- (7) 道は、初動期に引き続き、医療機関に対し、確保病床数・稼働状況、病床使用率、重症者用病床使用率、外来ひっ迫状況等を医療機関等情報支援システム（G-M I S）に確実に入力するよう要請を行い、これらの情報等を把握しながら、入院調整を行う。
- (8) 医療機関は、道からの要請に応じて、医療機関等情報支援システム（G-M I S）の入力を行う。
- (9) 医療機関は、感染症対策物資等（個人防護具等）の備蓄・配置状況について医療機関等情報支援システム（G-M I S）に入力を行い、感染症対策物資等が不足することが予見される場合は医療機関等情報支援システム（G-M I S）を通じて道へ報告を行い、道は、国等と連携し、医療機関の求めに応じ感染症対策物資等を提供する体制を構築する。
- (10) 本市は、民間搬送事業者等と連携して、自宅、発熱外来、入院医療機関、宿泊施設等の間での患者の移動手段を確保する。また、市民等に対し、症状が軽微な場合における救急車両の利用を控える等、救急車両の適正利用について周知する。
- (11) 本市は、道と連携して、発熱外来以外の医療機関に対して、患者からの相談に応じて相談センターまたは受診先として適切な発熱外来を案内するよう要請する。
- (12) 道は、特に配慮が必要な患者について、患者の特性に応じた受入れ医療機関の設定および病床の確保や、関係機関等との連携等の体制確保を行う。
- (13) 本市は、道や関係団体等と協力し、地域の医療提供体制や、相談センターおよび受診先となる発熱外来の一覧等を含め医療機関への受診方法等について市民等に周知する。
- (14) 道は、国と連携し、新型インフルエンザ等対策に関わる医療従事者に生じ得る心身への影響を考慮し、状況に応じたローテーション制の導入、休暇の確保、メンタルヘルス支援等の必要な対策を講ずるよう、医療機関に対し要請する。

### 3-2. 時期に応じた医療提供体制の構築

#### 3-2-1. 流行初期

##### 3-2-1-1. 協定に基づく医療提供体制の確保等

- (1) 国は、都道府県に対して、地域の感染状況を踏まえ、必要に応じて、感染症指定医療機関に加えて、流行初期医療確保措置協定締結医療機関においても、患者に適切な入院医療および外来医療を提供する体制を確保するよう要請する。道はこれに応じた所要の対応を行う。
- (2) 感染症指定医療機関は、初動期に引き続き、地域の感染症医療提供体制の中核として役割を果たす。流行初期医療確保措置協定締結医療機関は、準備期に道と締結した協定に基づき、道からの要請に応じて、病床確保または発熱外来を行う。
- (3) 本市は、道と連携し、医療機関に対し、症例定義を踏まえ、受診患者を新型インフルエンザ等の患者または疑似症患者と判断した場合は、直ちに保健所に届け出るよう要請する。
- (4) 医療機関は、症例定義を踏まえ、受診患者を新型インフルエンザ等の患者または疑似症患者と判断した場合は、直ちに保健所に届出を行う。
- (5) 本市は、道と連携し、新型インフルエンザ等の患者が発生した場合は、迅速に入院調

整を行い、感染症法に基づき、感染症指定医療機関または病床確保を行う流行初期医療確保措置協定締結医療機関に移送する。入院の優先度や入院先医療機関の判断等においては、準備期に整備・整理した役割分担に基づき、医療機関等と適切に連携して対応する。

- (6) 道は、地域の感染の拡大状況や医療提供体制のひっ迫状況等を踏まえ、3-4(2)の臨時の医療施設を設置する場合を想定し、必要に応じて迅速に設置することができるよう、準備期に整理した臨時の医療施設の設置、運営、医療人材確保等の方法を確認し、所要の準備を行う。

#### 3-2-1-2. 相談センターの強化

- (1) 国は、都道府県等に対して、帰国者等、接触者、有症状者等からの相談（受診先となる発熱外来の案内を含む。）を受ける相談センターの強化を行うよう要請する。
- (2) 国は、症例定義に該当する有症状者が、相談センターを通じて、発熱外来を受診するよう、国民等に周知を行うとともに、都道府県等に対しても、住民等に周知を行うよう要請する。
- (3) 本市は、国からの要請に応じて、有症状者等からの相談に対応する相談センターを強化し、市民等への周知を行い、感染したおそれのある者について、速やかに発熱外来の受診につなげる。

#### 3-2-2. 流行初期以降

##### 3-2-2-1. 協定に基づく医療提供体制の確保等

- (1) 国は、都道府県に対して、地域の感染状況を踏まえ、必要に応じて、感染症指定医療機関および流行初期医療確保措置協定締結医療機関に加えて、その他の協定締結医療機関においても対応するよう要請する。
- (2) 道は、地域の感染状況を踏まえ、必要に応じて、協定締結医療機関に対して、病床確保、発熱外来、自宅療養者等への医療の提供、後方支援または医療人材の派遣を行うよう要請する。その際、病床確保について、まずは、協定締結医療機関のうち公的医療機関等が中心となった対応とし、その後3か月程度を目途に、順次速やかに、対応する協定締結医療機関を拡大していく等、地域の実情に応じて段階的に医療提供体制を拡充する。
- (3) 協定締結医療機関は、準備期に道と締結した協定に基づき、道からの協議・要請に応じて、病床確保、発熱外来、自宅療養者等への医療の提供、後方支援または医療人材の派遣を行う。
- (4) 本市は、道と連携し、新型インフルエンザ等の患者が発生した場合は、迅速に入院調整を行い、感染症法に基づき、感染症指定医療機関または病床確保を行う協定締結医療機関に移送する。入院の優先度や入院先医療機関の判断等においては、準備期に整備・整理した役割分担に基づき、医療機関等と適切に連携して対応する。
- (5) 道は、病床使用率が高くなってきた場合には、国が示す重症化する可能性が高い患者を判断するための指標に基づき、基礎疾患を持つ患者等の重症化する可能性が高い患者を優先的に入院させるとともに、自宅療養、宿泊療養または高齢者施設等での療養の体制を強化する。また、症状が回復した者について、後方支援を行う協定締結医療機関へ

の転院を進める。

- (6) 道は、必要に応じて、医療人材の派遣を行う協定締結医療機関に対して、災害・感染症医療業務従事者等の医療人材の医療機関等への派遣を要請する。
- (7) 本市は、自宅療養および宿泊療養等において、感染症の特徴に応じて症状の状態等を把握するため、\*パルスオキシメーターによる経皮的\*酸素飽和度の測定等を行う体制を確保する。

### 3-2-2-2. 相談センターの強化

上記3-2-1-2の取組を継続して行う。

### 3-2-2-3. 病原体の性状等に応じた対応

- (1) 国は、都道府県に対して、小児、妊産婦、高齢者、特定の既往症を有する者等の特定のグループが感染・重症化しやすい等の新型インフルエンザ等が発生した場合は、リスクの高い特定のグループに対する重点的な医療提供体制を確保するよう要請する。
- (2) 国は、都道府県に対し、病原性が高い場合は、重症患者が多く発生することが想定されるため、感染症指定医療機関および協定締結医療機関において重症者用の病床の確保を多く行うよう要請する。一方、感染性が高い場合は、国は、都道府県に対し、必要に応じて、全ての協定締結医療機関において対応する等、医療提供体制を拡充するよう要請するとともに、入院医療を重症化リスクの高い患者に重点化するよう、入院基準等の見直しを行う。
- (3) 道は、国から(1)および(2)の要請を受けた場合は、協定締結医療機関等と連携の上、必要な医療提供体制を確保する。

### 3-2-3. ワクチンや治療薬等により対応力が高まる時期

- (1) 国は、都道府県に対して、協定に基づき措置を講ずる協定締結医療機関を減らすなど、地域の実情に応じて柔軟かつ機動的に対応するよう要請する。また、変異株の出現等により、感染が再拡大した場合は、国は、都道府県に対して、協定に基づき措置を講ずる協定締結医療機関を増やすなど、地域の実情に応じて柔軟かつ機動的に対応するよう要請する。道は、当該要請に応じて、協定締結医療機関等と連携の上、必要な対応を行う。
- (2) 国は、都道府県に対して、相談センターを通じて発熱外来の受診につなげる仕組みから、有症状者が発熱外来を直接受診する仕組みに変更するよう要請するとともに、国民等に対して周知する。道は、当該要請に応じて所要の措置を講ずる。本市は、市民等への周知を行う。

### 3-2-4. 特措法によらない基本的な感染症対策に移行する時期

ワクチン等により免疫の獲得が進むこと、病原体の変異により病原性が低下することおよび新型インフルエンザ等への対応力が一定水準を上回ることにより、特措法によらない基本的な感染症対策に移行する場合において、本市は、国から示される基本的な感染対策に移行する方針に基づき、道と連携し、新型インフルエンザ等発生前における通常の医療提供体制に段階的に移行する。

## 3-3. 予防計画および医療計画における事前の想定と大きく異なる場合の対応方針

新型インフルエンザ等の発生時に、新型インフルエンザ等の特徴のほか、その対応方法を含めた最新の知見の取得状況や、感染症対策物資等の確保の状況等が、準備期に整備した医療提供体制の事前の想定とは大きく異なる場合は、国は、J I H S等と協力して、通常医療との両立も踏まえながら、準備期に締結した協定の内容の変更や状況に応じた対応を行うことを柔軟かつ機動的に判断し、都道府県等に対して対応方針を示す。本市は、国の方針に基づき、道と連携し、協定内容の見直しを行うなど、必要な対応を行う。

## 3-4. 予防計画および医療計画に基づく医療提供体制を上回るおそれがある場合の対応方針

道は、国と連携し、上記3-1および3-2の取組では対応が困難となるおそれがあると考えられる場合は、必要に応じて、以下(1)から(3)の取組を行う。

- (1) 道は、国と連携し、一部の医療機関や一部の地域の医療がひっ迫する場合等の準備期に整備する体制を超える感染拡大が発生するおそれのある場合は、他の医療機関や他の地域と連携して柔軟かつ機動的に対応するよう、広域の医療人材派遣や患者の移送等の調整を行うとともに、必要に応じて総合調整権限・指示権限を行使する。
- (2) 道は、国と連携し、医療機関等情報支援システム(G-M I S)の情報を参考に、地域の感染の拡大状況や医療提供体制のひっ迫状況等を踏まえ、必要に応じて、臨時の医療施設を設置して医療の提供を行う。
- (3) 道は、国と連携し、上記の(1)および(2)の対応を行うとともに、本市は、市民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがある場合は、以下アからウの対応を行うことを道に要請する。
  - ア 第6章第3節(「まん延防止」における対応期)3-1-2および3-1-3の措置を講ずること。
  - イ 適切な医療の提供が可能となるまでの間、通常医療も含め重症度や緊急度等に応じた医療提供について方針を示すこと。
  - ウ 対応が困難で緊急の必要性がある場合は、医療関係者に医療の実施の要請等を行うこと。

## 3-5. 総合調整・指示

- (1) 道知事は、感染症法第63条の3第1項に基づき、平時から新型インフルエンザ等感染症等発生等公表期間に至るまで、感染症の発生およびまん延を防止する必要がある場合、保健所設置市長、市町村長および関係機関に対して人材確保や移送方法など、必要な体制整備等の総合調整を行うことができるものとする。
 

また、新型インフルエンザ等感染症等発生等公表期間において、住民の生死に直結する緊急性を有する入院勧告または入院措置を実施するために必要な場合には、知事は、保健所設置市長への指示を行うことができるものとする。
- (2) 道知事は、都道府県間の広域的な総合調整を行う必要がある場合は、厚生労働大臣からの指示を受けて適切な対応を行うものとする。
- (3) 道知事による指示は、新型インフルエンザ等感染症等発生等公表期間において、住民

の生死に直結する緊急性を有する入院勧告や入院措置を実施するために必要な場合に、保健所設置市長に対して行うことができるものとする。